

④ 指導助言者

福島県教育庁県北教育事務所指導課長 古山 直一
 同 指導主事 村岡房之助
 同 指導主事 松田 源治

いわき市教育委員会指導主事 萩生田 衆雄
 いわき市教育委員会指導主事 長谷川三雄

⑤ 研究内容

ア. 小学校第1分科会

◦発表表現力を豊かにするには、どのようにしたらよいか。

いわき市立上三坂小学校 針金 作次
 相馬市立玉野小学校 芳賀 依雄
 いわき市立永井小学校 大森 俊輔

イ. 小学校第2分科会

◦特別活動を意欲的にすすめるには、どのようにしたらよいか。

いわき市立桶売小学校 金成 茂
 双葉郡川内村立川内第三小学校 秋元 卓二
 いわき市立永井小学校 半谷 孟

ウ. 中学校第1分科会

◦個人差に応じた能力別指導は、どのようにしたらよいか。

いわき市立田人中学校 松本 和夫
 相馬市立玉野中学校 柴田 千秋
 いわき市立永井中学校 北原 郁夫

エ. 中学校第2分科会

◦教育相談の効果をあげるためには、どのようにしたらよいか。

いわき市立三和中学校 市川 善明
 双葉郡葛尾村立葛尾中学校 小丸 善深
 いわき市立永井中学校 登島 弘信

オ. 全体会

◦分科会報告(小学校)

いわき市立中三坂小学校 蛭田 早苗

◦分科会報告(中学校)

いわき市立差塩中学校 竹田 武雄

◦指導

福島県教育庁義務教育課主幹 岡部 一三

(3) 会津地区大会

① 期 日 昭和45年11月13日(金)

② 会 場 河沼郡柳津町立西山小学校・中学校

③ 研究主題

「山村へき地の実態に即し、学力向上をめざす経営や指導はどうあるべきか」

④ 講 師

福島県教育庁会津教育事務所長 小林 兵郎
 同 指導課長 半沢 鐘吉
 同 管理課長 佐藤 信一
 同 指導主事 大塚 稔
 同 指導主事 大橋 睦也
 同 指導主事 折笠 和男

⑤ 研究会内容

ア. 公開授業 柳津町立西山小学・中学校

イ. 全体会

◦研究発表

「わが校の現職教育の歩み」

西山小学校教頭 渡部 文衛

⑤ 研究内容

ア. 仮説1

教材研究、授業研究によって「話しあい学習」のあり方を研究し、どんなねらいで、何をどう話しあわせるかを計画化・組織化することによって、積極的な児童の反応を誘発することができる。

イ. 仮説2

どんな場面で、どんな話し方をすれば、自分の考え、意見を相手に伝えることができるか、をわからせることによって「話しあい学習・活動」が容易となる。

ウ. 仮説3

児童対児童、教師対児童の親和感、協力的態度を育てることによって、相手の立場を尊重し、相手の考えや意見を聞き、そうした信頼感に支えられて「話しあい」積極的な構えが育てられていく。

⑥ 分科会

ア. 下学年ブロック分科会

発言のかたよりをなくす指導

イ. 上学年ブロック分科会

小グループを活用した話しあいの指導

⑦ 全体指導

- 研究主題のは握と推進計画が吟味され実践された。
- 問題のは握が教育活動の本質をとらえたものである。
- 3つの仮説を、広い視野からとらえたものである。
- 児童の実態によって、実践が積み重ねられてきた。
- 機器を効果的に活用しながらも機器で果たせない個別指導を尊重し、研究主題の特性を見失わなかった。
- このような実践の中で「学習の現代化」がおのずから実践されてきた。
- 若い教師、ひとりひとりの熱意が結集され、創造的エネルギーとなった。
- 2カ年にわたる研究の結果が実に深いものであることを児童の姿からとらえることができた。

(2) 浜通り大会

① 期 日 昭和45年10月13日

② 会 場 いわき市立永井小・中学校

③ 研究主題

「小規模学校における児童・生徒の能力を、どのようにして開発したらよいか」

④ 講 師

福島県教育委員会教育長 三本杉國雄
 いわき市教育委員会教育長 大和田道隆
 福島県教育庁義務教育課主幹 岡部 一三
 いわき教育事務所指導課長 鴨志田義康
 相双教育事務所指導課長 小笠原 弘
 いわき市教育委員会学校教育課長 磯上 昌弘
 いわき教育事務所指導主事 齋藤 嘉敏
 いわき教育事務所指導主事 本多 昌雄
 いわき教育事務所指導主事 東条 節夫